

## 茅野市訪問報告 3月20日～21日（報告 4月12日）

- 1 日程 2023年3月20日(月)～21日(火)祝日
- 2 参加者 櫻井巖会長、渋井信和副会長、飯田哲郎副会長、平野正利監事、林ひろ子監事  
菊地輝雄事務局長

### 2 市内訪問先

20日(月)

- (1) 9時 新宿駅「あずさ9号」立川駅（9時30分）茅野駅11時11分着
- (2) 11時20分～12時20分 茅野駅テレワーク拠点見学
- (3) 13時30分 茅野市長表敬訪問
- (4) 14時30分～15時 市役所地域創生課と懇談会  
① テレワーク拠点の現状 ② 今後の茅野市と多摩地域との交流について
- (5) 15時～16時 テレワーク拠点見学[「帰ってきた蓼科事業」]
- (6) 16時 移動 テラス蓼科へ

21日(火)

- (1) 10時～11時30分 古氏家(外観見学)
- (2) 11時30分～13時 縄文考古館
- (3) 15時～17時25分新宿着 帰宅乗車 15時18分「あずさ38号」

### (訪問視察結果)

#### 1 茅野市駅隣接ビル「ハヶ岳ワークラボ」

三度目の訪問となる「ハヶ岳ワークラボ」だが、隣接に誰でも自由に使える開放型の図書館スペースが拡充されていた。また、ラボ内に個別のズームボックス(従来は電話ボックス)を付設するなど充実していた。

施設のあるビル内も、私たちが昼食をとったハンバーガーショップなどが開店しており、活気づいていた。なお、ワークラボは、昨年市内40箇所だったものが、現在、48箇所までに拡大しているとのことであった。

初めて訪問する当会会員は、ラボ内を一巡し、共同スペースや個別ブース、会議室、休憩室等の付帯施設を見学した後、東洋システム(立川IT交流会)の専用室に移動。森ビル矢部俊男氏から説明を伺った。その後、ビル内ラボの真ん前にあるハンバーガーショップで、大きなハンバーガーで昼食をとった。

森ビル 矢部俊男氏には、二日間にわたり細部にわたりご案内をご手配を頂きました。深く感謝申し上げます。



## 2 茅野市 今井市長訪問 20 日午後 1 時 30 分～2 時 30 分

茅野市ご出席者) 今井敦茅野市市長、田中裕之企画部長、小池俊正地域創生課長、久保山貴博地域創生係長 森ビル 矢部俊男氏

櫻井会長)

茅野市のアグレッシブな取り組みに期待しており、定住化、公共交通やまちづくりについて御市の取り組みに学び多摩地域に活かしていきたい。また、多摩の IT 関連企業と茅野市との協働の関係についても当会として継続的に見守り、力になりたいと思っています。今後ともよろしく願います。

今井市長のお話の概要)

### (1) 定住化について

公立諏訪東京理科大学は、公立化によって学力レベルは上がったが、卒業生の定住化率は下がった。もともと学生は、製造業が盛んな地域から転入してくる。地元枠はあるが学力が優先される。就職に関しては、学生の求める職種があれば、この地域には出先機関でもよい。地元の高校生は、4 割が多摩地域の 58 大学に入学している。子どもができれば、やはり茅野がいいといって帰ってくる人もいる。若い世代は、ワークライフバランスを大事にしている。転職に抵抗がなくなっている。こうしたことを踏まえ、市の若手職員が中心になって、市内人材育成プランを考えている。

### (2) 公共交通について

もともと通勤通学バスは充実していた。しかし、中高生を駅まで送るのはお母さんの仕事だった。8 千万から 1 億かけて空気を運んでいるとの声もあった。13 路線を廃止して「のらぎあ」を本格稼働させた。1 億 4 千万。通勤通学バス 5 千万そしてコールセンター 3 人で 2 千万。現在、アプリとアナログの併用。現在は、過渡期なので経費が掛かっている。乗合率をどう高めるか。最適化を目指して調整している。運営側と利用者の双方が慣れてきた段階。運用地域の範囲拡大を求められている。

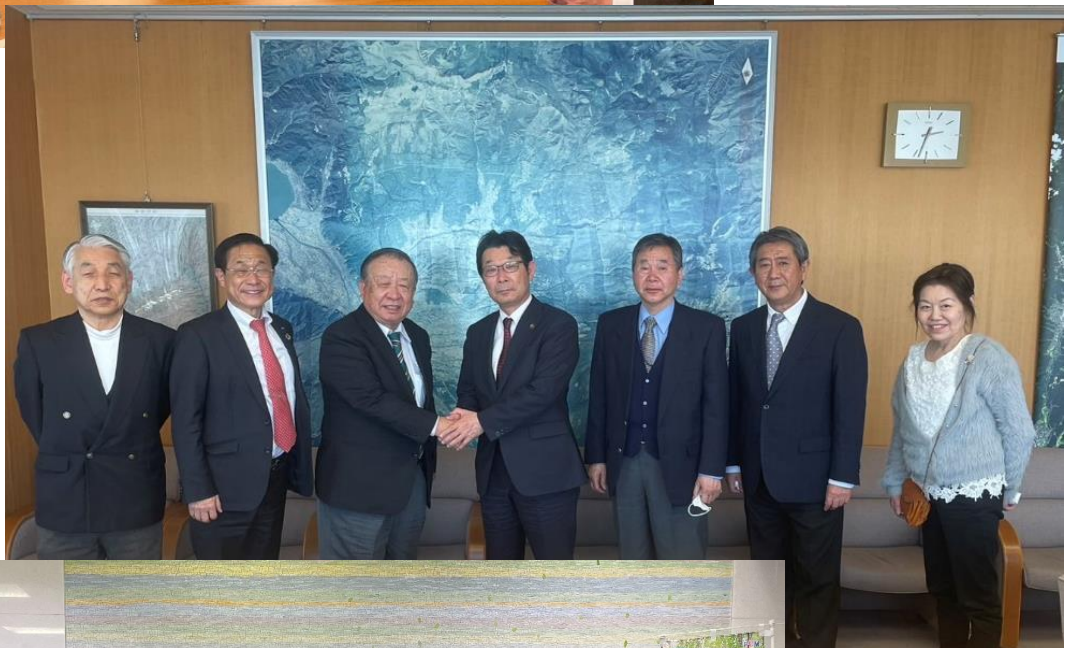
観光地の方面は、タクシーの利用が多く、タクシー側の稼ぎ場所。現在のところ「のらぎあ」をそこまで延ばせない。一方、タクシー会社にも、ドライバー不足という悩みがある。

また、即時予約や玄関先もだめ。タクシーとの差別化を求められている。国は事故時の対応を指摘してくる。このように既得権益などとの調整を図りながら進めている。

お年寄りには、「呼ぶ」のは苦手だが、「待つ」のは慣れている。「AI オンデマンド交通」と呼んでいる。



今後、医療機関へのアクセスなどの需要もある。「のらぎあとITの掛け算」医療特区、空き家対策での移住交流や、そもそも空き家にしないことなど取り組む課題がある。夏の涼しい三か月間を茅野で働く二拠点生活もある。



### 3 茅野市地域創生課との懇談 2時30分～3時

市側出席者) 小池俊正地域創生課長、久保山貴博地域創生係長、森ビル 矢部俊男氏

別添資料 「茅野市地域創生総合戦略 若者に選ばれるまちの実現に向けて」に沿って、茅野市の取り組みについて説明を頂いた。

多摩都市構想研究会からは、意見交換のための資料として、別添(概要)の「茅野市—立川市間の連携協力に関する意見交換資料」にもとづいて、今後の継続的な意見交換・相互協力の提案を行った。

当面この7月を目途に、茅野市地域創生課小池俊正課長様に立川でご講演をいただくこととした。ご講演の内容は、① 茅野市におけるテレワーク拠点の拡充と成果 ② 「AI オンデマンド交通 のらぎあ」の取り組みについて を中心に茅野市の総合戦略についてお話をいただく予定です。



多摩研究会 茅野市—立川市の連携について 概要.pdf



第二次茅野市地域創生総合戦略.pdf





#### 4 帰ってきた蓼科株式会社(一般社団法人ちのまちづくり推進機構)

4月24日オープン予定のお忙しい中ご対応いただきありがとうございました。

蓼科観光協会 協会長 柳澤幸輝氏、会社社長 矢崎公二氏、支配人 柴田良敬氏

宿泊施設の高付加価値化改修事業。ホテルの外壁・客室ガイドセンター・レストランを新たなレイクリゾートの拠点施設に改修し、蓼科での滞在時間延長を狙う。

- (1) 年間約150万人が来訪。別荘戸数全国第二位(約1万户)観光客調査によると、「蓼科観光の拠点整備」への要望が一番多く、別荘利用者アンケートでは、「地域交通」「レストラン・ショッピング場所の充実」を求める声がほぼ同数で1位。宿泊事業者からは、「蕎麦以外の飲食店」を求める切実な声が寄せられている。
- (2) 2020年に「道の駅ビーナスライン」が出来たものの、駐車場とトイレしかなく、通過地点になっている。観光客、別荘利用者、地域の三者のニーズに応える「周遊観光の拠点整備」「道の駅の補完」「観光・消費機会の充実」の3つの高付加価値化を目指す。





## 5 茅野市尖石縄文考古館

茅野市内には、260箇所の縄文遺跡群があり、1万年の平和の縄文文化の発信基地を目指している。同館には、日本で五体しかない国宝のうち「縄文の女帝」(写真下左)「縄文のビーナス」(写真下右)の2体を所蔵している。

